

のSpecial Seriesとして何回かつづけて刊行しようというものである。今回、その第1回の打合せ会が開催されたわけだが、日本からは東大・向坊教授および筆者が参加し、PnictidesとHydridesのセクションを分担する

こととなった。この作業は、いわば、これまでの4回のこのシンポジウムの基礎部門の成果の集大成であるわけで、皆、なかなかの意気込みであり、でき上りを期待してよいと思う。

## 計算機利用研究グループの報告

1972年11月の総会で設置が決定した計算機利用研究グループは、計算機利用状況のアンケート調査および公開可能な汎用プログラムの収集公開〔ニューズレター4巻4号67(1973)〕を行ってきたが、これまで延3件のプログラム利用申込みがあった。その後のわが国の計算機の開発の状況は、時分割方式、ミニコンピュータ、マイクロコンピュータ、IC化演算増幅器などの進歩がみられ、より進んだ形での計算機利用の可能性がでてきたので、第一回の計算機利用研究グループの会合が第10回熱測定討論会の機会に開かれ、計算機利用の現状の紹介や今後の活動の検討が行なわれた。

22人の参加者から計算機利用の現状が紹介されたが、オンライン時分割方式によって大型計算機センタの利用の例はなく、大部分がオフラインバッチ処理による複雑大量な計算によるデータ処理であった。また、卓上に置ける計算機の性能の著しい向上を反映して、これによるデータ処理を行なっている例も報告された。オンラインによるデータの即時処理や実験の制御を考慮している所では、時分割方式、ミニコンピュータないしマイクロコンピュータ、IC化演算増幅器の利用あるいはカセットテ

ープによるデータ収録等、多くの方式が考えられ、その選択やインターフェイスについての問題が指摘された。熱分析については、データの処理や解析の方法が確立していないこと、計算機化の利点が少ないことを理由に、時期尚早との意見もあった。

以上の現状にもとづき、オフラインの計算機利用については、前回にならない、公開可能なプログラムの収集と公開による相互利用を計ることとした。読者の中にも、熱測定用の公開可能な汎用プログラムがあれば、プログラム名、作成者氏名・所属・住所、使用目的、記述言語、利用者の義務を書き、主査あて御連絡いただきたい。

また、もう一つの分野であるオンラインの計算機利用については、各種方式の比較検討、インターフェイス(とくにそのハードウェア)の調査等を行ない、計算機利用を容易にするため、見学会・研究会の開催により調査検討を進め、できうれば報告書を作製することが提案され、順次実行されることとなった。

主査(電総研) 小 沢 丈 夫  
(東京都田無市向台町 0424-61-2141)

### 内外情報

#### ★ 第4回熱分析学校(4th Thermal Analysis School)

1975年4月7日~11日, Department of Chemistry and Applied Chemistry, University of Salford, Salford, Lancs, Englandにおいて

連絡先 Dr.D.Dollimore, University of Salford, Salford, M5 4WT, England.

#### ★ 第5回NATAS会議(5th Annual Meeting of the North American Thermal Analysis Society)

1975年6月8日~14日, Trent University; Peterborough, Ontario, Canadaにおいて。

連絡先 Dr.F.Noel, Imperial Oil Enterprises

Ltd., P.O.Box 3022, Savnia, Ontario, Canada  
N7T 7M1.(Thermochim. Acta 10, (No.2). (Oct, 1974)参照)。

#### ★ 第4回化学熱力学国際会議

1975年8月26日~30日。Montpellier, Franceにおいて。論文提出希望の場合は、タイプ用紙1ページ以内のアブストラクトを、1月15日までに送付のこと。

連絡先 Secrétariat de la 4<sup>ème</sup> CITC, C.N.R.S., 26, rue du 141<sup>o</sup> RIA, F-13003 Marseille, France. (会議の内容については、熱測定1, 90(1974)参照のこと。)

#### ★ 第1回熱分析に関するヨーロッパ

シンポジウム(1st European Symposium on

Thermal Analysis)

1976年9月20日～24日, University of Salford, Salford, Franceにおいて。

連絡先 Dr.D.Dollimore, Reader in Physical Chemistry, University of Salford, Salford M5 4WT, England.

(国内国外の、熱測定に関連のある学会等の情報をお持ちの方は、学会事務局内編集委員会まで御一報いただきたく存じます。)

会 報

日本熱測定学会第1回通常総会

日時 昭和49年11月29日(金)午後5時

場所 全共連ビル講堂(第10回熱測定討論会会場)

1. 総会の成立

総会出席者は委任状を含めて312名、会員総数(634名)の3/4を超えるので第1回通常総会は会則第5章第17条により成立した。

2. 昭和49年度事業報告(昭和48年10月1日～昭和49年9月30日)

2.1 会員現況 ( )内は口数

	48.9.30 現在	入会者	退会者	49.9.30 現在
一般会員	620	42	28	634
維持会員	51(110)	3(3)	2(13)	52(100)

2.2 集会および講演会

- 1) 委員会1回(大阪), 幹事会4回(東京), 編集委員会4回(東京)
- 2) 熱測定研究会第5回通常総会(大阪)
- 3) 第9回熱測定討論会(大阪)
- 4) 第10回熱測定討論会運営委員会1回(東京)  
第10回熱測定討論会特別行事委員会1回(東京)
- 5) 第2回熱測定セミナー(生体高分子の研究:大阪科学技術センター)

2.3 出版関係

- 1) 機関誌の発行
  - (i) ニューズレター VOL.4, №4 26頁
  - (ii) 熱測定(NETSU) VOL.1, №1～№3 98頁 発行部数800部
- 2) 熱・温度測定と熱分析1973年版の編集

2.4 グループ活動

- 1) 熱分析用語法作業グループ(主査:神戸博太郎)
- 2) 熱分析共同測定作業グループ(主査:神戸博太郎)
- 3) BTT情報収集作業グループ(主査:高橋洋一)
- 4) 計算機利用研究グループ(主査:小沢丈夫)

2.5 国際協力

1) 協力学会

IUPAC, ICTA, NATAS, CODATA

All Union Calorimetry Conference(ソ連)

Calorimetry Conference(米)

Experimental Thermodynamics Conference(英)

フランス化学会熱化学研究グループ(仏)

Nordforsk 熱分析委員会(北欧)

2) 熱分析に関する日米セミナー(1974年4月8日～12日, Akron)の開催に協力

3) ICTA国際会議(1977年)の日本開催の決定

3. 昭和49年度収支決算(昭和48年10月1日～昭和49年9月30日) ( )内は予算, 単位:円

収入の部		支出の部	
前期繰越金	615,310 (615,310)	刊行費	1,262,206 (1,175,000)
正会員会費	1,117,600 (1,240,000)	事業費	277,588 (90,000)
維持会員会費	925,000 (1,100,000)	通信費	52,875 (60,000)
広告料収入	415,500 (200,000)	会議費	91,702 (100,000)
事業収入	239,587 (15,000)	交通費	83,560 (380,000)
雑収入	60,931 (30,000)	事務局費	617,020 (620,000)
		事務用品費	76,732 (80,000)
		雑費	27,505 (30,000)
		予備費	68,608 (100,000)
		次期繰越金	816,132 (565,310)
合計	3,373,928 (3,200,310)	合計	3,373,928 (3,200,310)

4. 昭和50年度役員選挙結果

「昭和50年度委員名」参照

5. 昭和50年度事業計画(昭和49年10月1日～昭和50年9月30日)

5.1 集会および講演会

- 1) 委員会1回, 幹事会5回, 役付幹事会1回, 編集委員会4回
- 2) 日本熱測定学会第1回通常総会
- 3) 第10回熱測定討論会